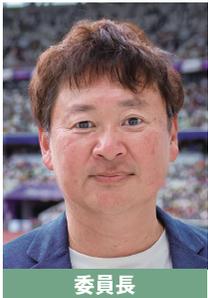


「登録・認証制度」発足に懸ける「委員長」、そして「幹事長」の思い

部活動の地域展開から、やがて、スポーツ文化の広がりへ



委員長

にのみや まさよし
二宮雅也氏

総合型地域スポーツクラブの質的充実に向けた支援推進事業中央協議会委員長として、登録制度や認証制度の構築に尽力。文教大学人間科学部人間科学科教授。

総合型クラブの「認証」には多様な形が考えられますが、初年度、口火を切った「部活動の地域展開タイプ」は、北は福島から南は長崎まで全国の10クラブが認証されました。地域展開は、全国各地で切実な課題であり、その解決に向け、意欲ある総合型クラブが主体的に声を上げてくれた形です。

当該の総合型クラブは、全国から注目されることでいい意味で緊張感が生まれ、地域展開により注力することが期待でき、さらには、同様の課題を持つ総合型クラブとのネットワーク化が進み、お互いのよさを生かしていくことなども考えられるでしょう。

多様な有する総合型クラブが地域展開に関わることで、子どもたちには複数種目に参加する機会が生まれ、多世代交流も盛んになります。また、学校卒業後も総合型クラブに残り、大人になっても充実したクラブライフを送り、やがては指導者や経営者として

参画するなどの広がりもあるでしょう。中学生が総合型クラブに関わることで、未来への連続性という期待も高まります。

今後は、障がい者のスポーツ推進、地域の健康づくり貢献など、さまざまなタイプの「認証」が考えられ、さらには、ほかの地域課題に対応している総合型クラブが認証されていくことも期待されます。

総合型クラブは有償無償問わず究極のボランティア、志ある人がその活動を支えています。そして、その大きな特質の一つは「先駆性」——誰もやっていないことに挑戦する。この先は、「総合型クラブの力でこんなふうに地域の課題を解決するんだ」という「認証クラブ」が増え、自らの活動にさらなる楽しみを見だし、すると周囲の人々も感化され、活動はますます加速する……その姿こそ、まさに「スポーツ文化」の広がりにつながる、私はそう考えています。

動け! ~風向きが変わるから~「認証制度」は大いなるチャンス



幹事長

わたなべ ゆうこ
渡邊優子氏

総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)幹事長、希楽々理事、新潟県村上市教育委員会学校教育課未来の学校創造室部活動地域展開総括コーディネーター。

今、まさに総合型クラブは「動くとき」、私はそう強く訴えたい。

総合型クラブの育成開始から30年。私が「希楽々」(新潟・村上市)を立ち上げた当時は総合型クラブに対する認知など皆無で、設立しても風さえ吹かない。そこから22年、がむしゃらに動いてきて今がある、そう実感するからこそ声を大にして言いたい。

今回の「認証制度」は、大いなるチャンスです。ガバナンス(管理体制)がしっかりし、公益性もある総合型クラブが「部活動の地域展開タイプ」に手を挙げれば、行政にすれば渡りに船。それには総合型クラブの認知が不可欠です。全国の行政は地域展開の制度設計している真ただただで、受け手団体が多様にあるなか、総合型クラブの存在をアピールするもの、それが「認証制度」にはかぎりません。

一方、現状を見ると二の足を踏む総合型クラブは多く、意識改革の必要性を感じています。総合型クラブを立ち上げた世代が年を重ね、次世代への「トントンタッチ」する時期を迎えています。必ずしもうまく進まず、「クラブに体力がないから認証クラブになっても新人を雇用できない」と後ろ向きに考えてしまうこともあろうです。例えば、JSPOの「ブロック別クラブネットワークアクション」に若手を送り出すのも一案。すると各地の新しい考えに触れ、その経験から新しい風が流れ、動き始める。大切なのは、総合型クラブの存在をいかに訴えるか、それを考えること。

それでもまだ動かない? まだ、人材が、予算が……と逡巡する? であるならば、「地域で困っている子どもがいるのに総合型クラブは何もしないのか」、そこを原点に、どこかあらためてスタートしてほしいと思います。

部活動改革、その先へ 地域で育むジュニアスポーツ

2023~'25年度までの「改革推進期間」を経た'26年度から中学校の部活動を巡る改革が新たなフェーズ(局面)を迎える。今号は、「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」で'25年度にスタートした「認証制度」のうち「部活動の地域展開タイプ」にフォーカスする。



総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度

「認証制度」2025年度運用開始で10クラブが「部活動の地域展開タイプ」に認証される

「認証制度」って、何?

認証制度は「登録・認証」の2階建ての構造の2階の部分に位置づけられ、地域課題の解決や地域スポーツ環境の発展につながるタイプ別の認証基準を具備していると認められる登録クラブを認証する制度です。

「登録」と「認証」の2階建て制度構造のイメージ



全国的な総合型クラブの質的充実や質的向上を目的とした登録と、登録クラブがその特徴をいかに、更なる発展や成長を目指すことを目的とした認証という2階建ての制度構造により、地域スポーツ環境の整備・発展に寄与することを旨とする制度です。

CHECK POINT!

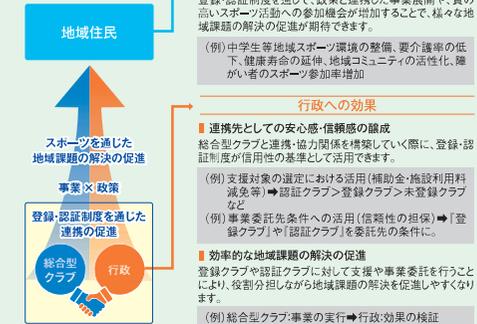
1995年の国の育成モデル事業開始以来、総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」)の育成は進み、2010年を迎えるころには全国で3000を超えます。その一方で、「多様目」「多世代」「多志向」というキーワードはあるものの、総合型クラブそれぞれの活動の実態は見えづらい面がありました。また、総合型クラブができたことで地域住民の暮らしは、さらに地域自体は、実際どう変化したのか。こうした側面を明らかにするのは容易ではありません。

そこで'22年に「登録・認証制度」が構築され、まず「登録」することで総合型クラブ自体の質的向上が図られるようになり、そして'25年、「認証制度」が本格発進。総合型クラブが実施している「社会の課題を解決する取り組み」の見える化が可能になります。

2025(令和7)年度の「部活動の地域展開タイプ」に認証された10クラブ

No.	クラブ名	所在地
1	NPO法人かわまたスポーツクラブ	福島県伊達郡川俣町
2	特定非営利活動法人クラブドラゴンズ	茨城県鹿嶋市
3	特定非営利活動法人白岡Sport-Verein	埼玉県白岡市
4	NPO法人希楽々	新潟県村上市
5	一般社団法人可児UNICSスポーツクラブ	岐阜県可児市
6	一般社団法人Escore野田スポーツクラブ	大阪府堺市
7	一般社団法人リトルバン総合型地域スポーツクラブ	奈良県生駒市
8	一般社団法人くまがらクラブ	奈良県生駒郡平群町
9	NPO法人ふみの里スポーツクラブ	福岡県糟屋郡宇美町
10	特定非営利活動法人総合型SC長与スポーツクラブ	長崎県西彼杵郡長与町

登録・認証制度がもたらす効果



CHECK POINT!

総合型クラブが具体的に地域課題を解決できる力を示すことで、行政がその存在を再認識することが期待され、パートナーシップなどが進むことも考えられます。すると地域住民が寄せられる信頼はより厚みを増し、総合型クラブの基盤強化促進が予想されます。実際、両者が良好な関係にあるケースでは、総合型クラブの持続性が高まるという過去の調査結果もあります。

「部活動の地域展開タイプ」の申請条件

- 登録クラブであること
 - 総合型クラブとして法人格を有していること
 - 部活動の地域展開における、地域スポーツクラブ活動の運営団体(※)を担っていること
- ※運営団体:各競技種目等の地域スポーツクラブ活動の全体を統括し、事務局として下のイメージ図のような役割を担う団体

